

2016年度 事業報告書

自 2016年 4月 1日

至 2017年 3月31日

公益財団法人 日本感染症医薬品協会

I. 公益事業

1. 普及啓発

(1) 機関誌及び刊行物

① The Journal of Antibiotics

Vol.69 No.4~12 及び Vol.70 No.1~3 を毎月 27 日に発行し、No.4, 7, 8 は特集号となった(総論文数 168 編、1,046 頁)。

また、2016 年 6 月 18 日に第 58 回国際編集会議 (Boston)、2017 年 3 月 30 日に第 59 回国際編集会議 (メールカンファレンス)、そして 2016 年 5 月 19 日と 9 月 8 日に本協会会議室にて、国内編集会議を開催した。

② The Japanese Journal of Antibiotics

Vol.69 No. 2~6 及び Vol.70 No.1 を偶数月の 25 日に発行し(総論文数 29 編、392 頁)、また、電子ジャーナルとして本協会ホームページに公開した。そして、2017 年 1 月 26 日に編集会議を開催した。その他、3 回のメールカンファレンスを開催した。

③ 「マクロライド新作用研究会」記録集の刊行

The Japanese Journal of Antibiotics Vol.70 Suppl. A として「マクロライド新作用研究会」記録集 (2017 年 3 月 31 日発行) を発行した。

(2) 講演会

① 記念講演

1) 住木・梅澤記念賞の受賞記念講演

2016 年 10 月 18 日 [学士会館]

受賞者：尾仲 宏康 (東京大学大学院 農学生命科学研究科)

受賞講演Ⅰ：「放線菌における潜在的二次代謝能の覚醒による新規抗生物質探索手法の確率及びその作用機構の解明」

受賞者：葛山 智久 (東京大学生物生産工学研究センター)

受賞講演Ⅱ：「微生物由来テルペノイドの生合成研究」

2) 日本感染症医薬品協会奨励賞の受賞記念講演

2016 年 10 月 18 日 [学士会館]

受賞者：紅林 佑希 (静岡県立大学大学院 薬学研究院)

受賞講演：「抗インフルエンザ薬耐性ウイルスの高感度検出分離法の開発と薬剤耐性化の機構解析」

② メディカル・サイエンス セミナー（最近話題の微生物のはなし）

- 1) 2016年9月15日 [学士会館]
講師：佐藤 淳子（独立行政法人医薬品医療機器総合機構 国際協力室）
講演Ⅰ：「抗菌薬開発の将来について」
講師：長谷川 直樹（慶応義塾大学医学部 感染制御センター）
講演Ⅱ：「耐性菌感染症の現状と今後について—非結核性抗酸菌（NTM）症を中心に—」

- 2) 2016年10月18日 [学士会館]
講師：小林 治（杏林大学 保健学部臨床検査技術学科、医学部総合医療学、医学部付属病院 病院管理部）
特別講演：「抗インフルエンザ医薬品開発と国際貢献」

- 3) 2017年1月24日 [如水会館]
講師：館田 一博（東邦大学医学部 微生物・感染症学講座）
講演Ⅰ：「AMR アクションプランが求める抗菌薬適正使用」
講師：菊池 賢（東京女子医科大学医学部 感染対策部感染症科）
講演Ⅱ：「忍び寄る耐性菌の現状とその対応について」

③ 耐性菌対策事業

2016年9月15日と2017年1月24日に開催されたメディカル・サイエンス セミナーで、耐性菌のテーマの講演を行った。

④ 出張講演

- 1) 2016年6月27日 [東京都:社会福祉法人親の家]
講師：林 泉（公益財団法人佐々木研究所附属杏雲堂病院）
演題：「結核予防について」

- 2) 2016年7月20日 [長野県:ホテルティ・ヴェール軽井沢]
講師：前崎 繁文（埼玉医科大学 感染症科・感染制御科）
演題：「話題の感染症。エボラ、MERS、ジカ熱、インフルエンザなど」

- 3) 2016年8月16日 [東京都:ふらっとコミュニティ「みどり」]
講師：豊永 義清（社会医療法人石心会狭山病院）
演題：「夏に多い食中毒—知っておくべき知識—」

- 4) 2016年9月14日 [埼玉県:大宮ソニック市民ホール]
講師：龍田 桂吉（元東京都芝浦食肉衛生検査所、元東京都動物愛護相談センター）
演題：「ペットからうつる感染症について」

(3) 行政機関及び内外の諸団体との連絡、協力及び交流

① 行政機関との連絡及び協力

1) 厚生労働省 医薬・生活衛生局 医薬品審査管理課

貴重で重要な薬剤との位置づけから、適正使用に努めるため組織された「バンコマイシン研究会」が2016年11月11日に、「リネゾリド研究会」が2016年12月13日に開催され、担当官が出席した。

2) 厚生労働省 医薬・生活衛生局 安全対策課

医薬品審査管理課担当官とともに、2016年11月11日に開催された「バンコマイシン研究会」、2016年12月13日に開催された「リネゾリド研究会」に担当官が出席した。

3) その他

行政担当室参事官補佐、行政担当室室員とともに、本協会監事立会いの下、2016年7月20日に内閣府立入検査が行われた。2015年度事業の実施状況についての説明をした後、それについての質疑応答が行われた。続いて、書類精査が行われ、それについての質疑応答が行われた。

最後に、指摘事項についての説明があり、変更や書類提出等を特に求められることはなかった。

② 内外の諸団体との共催、後援、連絡、協力及び交流

1) 第23回マクロライド新作用研究会

2016年7月29～30日

[飯田橋レインボービル]

2) 第27回新薬創製談話会「代謝・腸内細菌と疾病との関わり」

2016年8月30～31日

[筑波山 江戸屋]

3) 第30回トラベラーズワクチンフォーラム研修会

2016年9月24日

[国立国際医療研究センター]

第31回トラベラーズワクチンフォーラム研修会

2017年2月18日

[国立国際医療研究センター]

4) 日本化学療法学会／日本感染症学会

第90回日本感染症学会総会・学術講演会

2016年4月15～16日

[仙台国際センター]

第64回日本化学療法学会総会

2016年6月9～11日

[神戸国際会議場]

第 63 回日本化学療法学会東日本支部総会/第 65 回日本感染症学会東日本地方会学術集会
2016 年 10 月 26～28 日 [朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター]
第 64 回日本化学療法学会西日本支部総会/第 86 回日本感染症学会西日本地方会学術集会
第 59 回日本感染症学会中日本地方会学術集会
2016 年 11 月 24～26 日 [沖縄コンベンションセンター]

5) 日本環境感染学会
第 32 回日本環境感染学会総会・学術集会
2017 年 2 月 24～25 日 [神戸国際会議場]

6) 日本ワクチン学会
第 20 回日本ワクチン学会総会/学術集会
2016 年 10 月 22 日 [京王プラザホテル]

7) 日本放線菌学会
第 60 回日本放線菌学会学術講演会
2017 年 3 月 10 日 [北里大学 薬学部 1 号館]

(4) 蔵書等閲覧・コピー
本協会に所蔵の書籍、刊行物、資料等の閲覧、コピーが可能である旨をホームページ上に掲載し、一般の利用に供した。

2. 研究助成及び表彰

(1) 住木・梅澤記念賞

住木・梅澤記念賞選考委員会が、2016 年 7 月 22 日、本協会会議室において開催され、東京大学大学院 農学生命科学研究科 尾仲 宏康氏と東京大学生物生産工学研究センター 葛山 智久氏が選考された。

(2) 奨励賞

日本感染症医薬品協会奨励賞選考委員会が、2016 年 8 月 3 日、本協会会議室において開催され、静岡県立大学大学院 薬学研究院 紅林 佑希氏が選考された。

(3) JA Medal

JA Medal 2016 の投票が行なわれ、次の論文が確定した。メダルと賞状の授与は 2017 年度に行なわれる。また、JA Editor-in-Chief Emeritus (前編集長) である大村智先生のノーベル生理学・医学賞受賞を記念し、JA Medal 2017 から JA Ōmura Award と名称が変更される。2017 年度に選考が行われ、メダルと賞状の授与は 2018 年度に行なわれる。

選考対象論文：Vol. 66 (2013) – 68 (2015)

【Review article】

受賞者： Grace Yim

受賞論文： Glycopeptide antibiotic biosynthesis [Vol.67, No.1, pp.31-41 (2014)]

【Original article】

受賞者： Shajila Siricilla

受賞論文： Discovery of a capuramycin analog that kills nonreplicating *Mycobacterium tuberculosis* and its synergistic effects with translocase I inhibitors [Vol.68, No.4, pp.271-278 (2015)]

II. 共益事業

1. 月曜会

特別会員幹事会である月曜会が、2016年5月11日、7月6日、10月19日、12月14日に、本協会会議室において開催された。11月に開催予定の70周年記念事業について、概略が説明され、当日の運営について、協力を求め、検討を行った。また、メディカル・サイエンスセミナー開催について、開催日程、講演内容、講師について、検討を行った。

新ワクチン分科会の活動報告が行われ、「感染症予防ワクチン開発のための指針整備及びそれを支援する国内環境の整備に関する要望書（案）」の提出について、関係団体に協力を求めたことが報告された。

新薬評価検討分科会（2015年度で活動終了）から、「抗菌薬審査報告書データベース」を作成したことが報告され、アクセス及び検索方法について説明された。

特別会員会費について、新しい抗菌剤がない現状、本協会への会費に対する社内の目が厳しくなっている。本協会を維持するためにいくら必要で、それをどう負担するのか、検討する必要があるとの意見があった。

2. 新ワクチン分科会

新ワクチン分科会が、2016年10月6日、2017年1月31日、3月22日に、本協会会議室において開催され、また、メールカンファレンスが随時行われ、臨床試験ガイドラインに紐づく各論ガイドランスの必要性等、ワクチン開発を取り巻く環境を整理して、具体的な要望を国に出すことにし作成した「感染症予防ワクチン開発のための指針整備及びそれを支援する国内環境等の整備に関する要望書（案）（以下、「要望書（案）」）を関係団体に提出し、協力を求めた。

2016年11月16日、本協会会議室に、日本製薬工業協会（以下、「製薬協」）、米国研究製薬工業協会（以下、「PhRMA」）、欧州製薬団体連合会（以下、「EFPIA」）の代表者と打合せ会合を開いた。結果、EFPIAから、要望書を否定するものではないが、リソースがないと回答があった。製薬協から、要望書（案）を検討することで、協力すると回答を得た。また、PhRMAから、要望書の趣旨に異論があるわけではないが、リソースがないと回答があった。なお、製薬協が協力すると聞いており、PhRMAの加盟企業も製薬協に入っており、製薬協を通じて協力できると付け加えた。関係団体との調整が終わり次第、16の学会が所属している予防接種推進専門協議会に要望書の提出に

協力を求め、働きかけることとした。

3. バンコマイシン研究会

バンコマイシン研究会が、2016年11月11日に、本協会会議室において開催され、耐性菌報告、販売数量報告が行われ、次期感受性サーベイランス（統一プロトコール第4回）試験について、調査概要、スケジュールが説明された。

また、厚生労働省 医薬・生活衛生局 安全対策課 宮武祐樹 係員より、「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン」について、教育講演が行われた。

厚生労働省 医薬・生活衛生局 医薬品審査管理課 担当官より、AMR対策はグローバルな課題となっており、今後さまざまな取り組みが進んでいく、バンコマイシンについては、承認条件を付けた2002年から本研究会を設置し、活動いただいているが、後発品のシェアが増える現状、重要な位置づけであること変わりなく、サーベイランスの取り組みも長く継続していただきたいと各社の協力を要請した。

2002年～2014年までの感受性調査結果の論文化について、“The Japanese Journal of Antibiotics”への投稿準備が行われており、各社に協力が求められた。

4. リネゾリド研究会

リネゾリド研究会が、2016年12月13日に本協会会議室において開催され、VRE感受性測定、リネゾリド製剤の出荷量が報告され、適正使用推進への取り組みが話し合われた。

最後に、厚生労働省 医薬・生活衛生局 医薬品審査管理課 担当官より、本年4月に薬剤耐性菌対策のアクションプログラムが発出され、伊勢志摩サミットでも具体的な取り組みに関して話し合われたことが報告された。なお、リネゾリド製剤は適正に使用して欲しいと述べ、産官学による適正使用の取り組みを推進し、リネゾリド研究会で感受性調査を行っていくことは、各社の費用負担もあり、負担をかけるが継続的に活動していただきたいと要望された。

5. 70周年記念事業

70周年記念事業準備委員会が、2016年4月20日、6月21日、8月29日に、本協会会議室において開催された。2016年11月10日、目黒雅叙園において、70周年記念講演会として、大村智先生と齊藤 厚先生による講演が行われ、引き続き、記念式典・祝賀会が開催された。

III. 収益事業

賃貸事業

本協会の建物のうち1階を一般財団法人機能水研究振興財団に、3階と5階を特定非営利活動法人バイオメディカルサイエンス研究会に、賃貸している。また、4階会議室については、会議室として貸し出し可能である旨をホームページ上に掲載し、希望がある時に、随時、貸し出している。

IV. 管理

1. 理事会及び評議員会

第 17 回理事会	2016 年 5 月 12 日	[本協会会議室]
第 6 回評議員会	2016 年 5 月 27 日	[本協会会議室]
第 18 回理事会	2016 年 10 月 20 日	[本協会会議室]
第 19 回理事会	2017 年 3 月 28 日	[本協会会議室]

2. その他

本協会ホームページを主な媒体として広く、本協会の活動について啓発、広報を行った。

V. 物故役員等

元 JA 編集委員	深川 泰男先生	(2016 年 4 月 3 日)
学術委員	辻 彰 先生	(2016 年 5 月 18 日)
元評議員	原 耕平先生	(2016 年 7 月 3 日)
評議員	小林 芳夫先生	(2016 年 12 月 21 日)

VI. 特別会員

旭化成ファーマ株式会社
アステラス製薬株式会社
エーザイ株式会社
MSD 株式会社
大塚製薬株式会社
科研製薬株式会社
杏林製薬株式会社
協和発酵キリン株式会社
小林化工株式会社
サノフィ株式会社
沢井製薬株式会社
参天製薬株式会社
サンド株式会社
塩野義製薬株式会社
シオノケミカル株式会社
第一三共株式会社
大興製薬株式会社
大正製薬株式会社
大日本住友製薬株式会社
大鵬薬品工業株式会社

武田テバファーマ株式会社
武田薬品工業株式会社
田辺三菱製薬株式会社
中外製薬株式会社
東和薬品株式会社
富山化学工業株式会社
株式会社トライックス
日医工株式会社
日本アルコン株式会社
一般社団法人日本血液製剤機構
バイエル薬品株式会社
光製薬株式会社
ファイザー株式会社
株式会社ポーラファルマ
マイラン EPD 合同会社
マイラン製薬株式会社
マルホ株式会社
Meiji Seika ファルマ株式会社
ヤンセンファーマ株式会社

[以上 39 社]

VII. 月曜会委員

旭化成ファーマ株式会社 (山路真也)	大日本住友製薬株式会社 (若村友太郎)
アステラス製薬株式会社 (加藤研一・押田卓也)	武田薬品工業株式会社 (狩野宗英)
科研製薬株式会社 (村上 覚)	田辺三菱製薬株式会社 (河野雅信・菅生和正)
協和発酵キリン株式会社 (松田泰周)	富山化学工業株式会社 (地曳康訓・藤巻一雄)
サノフィ株式会社 (石井康則)	ファイザー株式会社 (長島正人・中島慶太郎)
塩野義製薬株式会社 (吉田博之・有安まり)	Meiji Seika ファルマ株式会社 (高橋 誠・上薮智史)
第一三共株式会社** (南谷進市・大江慶司)	ヤンセンファーマ株式会社 (佐々木一尋・中山慶一)
大正製薬株式会社* (塚原勝則・生田朋久)	

[構成会社 15 社 (委員名) ; *幹事会社、**副幹事会社]

*月曜会 新ワクチン分科会委員

津下宏之・山内英征 (北里第一三共ワクチン株式会社)
石井康則・小寺康夫 (サノフィ株式会社)
狩野宗英 (武田薬品工業株式会社)
米岡一樹 (田辺三菱製薬株式会社)
山地雅子 (ファイザー株式会社)
佐々木一尋・中山慶一 (ヤンセンファーマ株式会社)

VIII. バンコマイシン研究会

小林化工株式会社
(寺前順也、西本啓太)

沢井製薬株式会社
(浅田英文)

サンド株式会社
(稲澤 浩)

武田テバファーマ株式会社
(橋本和恵)

東和薬品株式会社
(林 訓子)

トライックス
(秦 俊二)

日医工株式会社
(高瀬宏樹)

光製薬株式会社
(石井成佳)

ファイザー株式会社
(大野誠一郎、大島純一)

マイラン製薬株式会社
(藤本隆則)

Meiji Seika ファルマ株式会社*
(片岡裕史)

[構成会社 11 社 (委員名) ; *幹事会社]

IX. リネゾリド研究会

シオノケミカル株式会社
(小宮淳史、塩川俊幸)

大興製薬株式会社
(加藤健郎)

光製薬株式会社
(石井成佳)

ファイザー株式会社*
(湯浅 晃、今井啓之)

Meiji Seika ファルマ株式会社
(片岡裕史)

[構成会社 5 社 (委員名) ; *幹事会社]

X. Friends of the Journal (国内外法人)

旭化成ファーマ株式会社

Asahi Kasei Pharma Corporation

第一三共株式会社

DAIICHI SANKYO CO., LTD.

大日本住友製薬株式会社

Sumitomo Dainippon Pharma Co., Ltd.

科研製薬株式会社

KAKEN PHARMACEUTICAL CO., LTD.

杏林製薬株式会社

KYORIN Pharmaceutical Co., Ltd.

Meiji Seika ファルマ株式会社

Meiji Seika Pharma Co., Ltd.

日本マイクロバイオファーマ株式会社

MicroBiopharm Japan Co., Ltd.

大正製薬株式会社

TAISHO PHARMACEUTICAL CO., LTD.

富山化学工業株式会社

TOYAMA CHEMICAL CO., LTD.

Traders Protein (U.S.A.法人)

[以上 10 法人]

事業報告の附属明細書

1. 普及啓発

(1) 機関誌及び刊行物

① The Journal of Antibiotics

合計 168論文、1,046頁

インパクトファクター2015: 2.173

Vol. 69, No. 4	22論文	164ページ
Vol. 69, No. 5	9論文	58ページ
Vol. 69, No. 6	11論文	60ページ
Vol. 69, No. 7	16論文	108ページ
Vol. 69, No. 8	14論文	78ページ
Vol. 69, No. 9	10論文	66ページ
Vol. 69, No. 10	11論文	60ページ
Vol. 69, No. 11	9論文	60ページ
Vol. 69, No. 12	7論文	58ページ
Vol. 70, No. 1	16論文	114ページ
Vol. 70, No. 2	23論文	116ページ
Vol. 70, No. 3	20論文	104ページ

② The Japanese Journal of Antibiotics

合計 29論文、392頁

Vol. 69, No. 2	5論文	44ページ
Vol. 69, No. 3	5論文	96ページ
Vol. 69, No. 4	6論文	80ページ
Vol. 69, No. 5	5論文	48ページ
Vol. 69, No. 6	4論文	40ページ
Vol. 70, No. 1	4論文	84ページ